

平成10年度 病虫害発生予察注意報 第1号

病虫害名：疫 病
対象作物：ナ シ

1．注意報の内容

- (1)対象地域 都下全域
- (2)作物名 ナシ
- (3)発生量 多い

2．注意報発令の根拠

- (1)平成10年4月下旬、南多摩地域の一部ナシ園において、ナシの葉、若茎および幼果が黒褐色、水浸状の病斑を生じ、腐敗する病害を確認した。発病は新梢に多く認められ、初め主に新梢先端の葉から発病する。その後、発病葉の葉柄から新梢部に病斑が進展し、新梢全体が枯死する。幼果では、初め果そう基部が侵され、果そうの病斑から果梗および幼果に病斑が進展し、幼果全体が腐敗する。いずれの場合も病気の進行は極めて早い。病斑上および罹病組織内には疫病菌と判断される無隔壁菌糸と遊走子嚢が豊富に観察され、また罹病組織からは同様の糸状菌が高率に分離された。
- (2)病原菌の形態は、菌糸は無色で無隔壁、遊走子嚢は菌糸から葡萄房状に形成されることが多く、卵形～洋梨形で、大きさは平均 $36.1\mu\text{m} \times 28.2\mu\text{m}$ 、乳頭突起は顕著に膨らむ。有性器官は同株性で容易に形成される。造卵器は球形で、大きさは $32.9\mu\text{m}$ 。卵胞子は造卵器の中に充満または未充満、球形で大きさは $28.6\mu\text{m}$ 。造精器は円形～長円形または不整形で大きさは $13.9\mu\text{m} \times 12.1\mu\text{m}$ 、造卵器に対する着生様式は主に側着、まれに定着であった。また、分離菌株の生育温度は5～30の範囲で認められ、適温は20～25、35では生育しない。これら病原菌の形態的特徴および生育温度から、本病菌はPhytophthora cactorum (Lebert et Cohn) Schroterであり、発生したナシの病害は疫病と判明した。
- (3)5月1日の調査では、本病の発生は該当地区のほぼ全域で認められ、多発圃場では1樹あたり13～40本の新梢が発病していた。他の地域での発生は現在までのところ確認されていない。
- (4)降水量は、4月1日～20日の20日間で、合計162mm(平年比211)、合計降雨日数は9日、特に11日～20日の平均気温は17.2(平年差+4.6)であった(いずれも

気象庁府中観測所データ)。

- (5) 4月下旬の本病の突発的な発生は、気象条件が本病の蔓延に好適な条件であったことが推察され、現在も圃場内の菌密度は高い状態にあると判断される。また、病原菌の性質から、降雨が続けば梅雨期前半までは活発に活動可能であり、被害の拡大が懸念される。

3. 防除対策

- (1) 発病部位はただちに取り除き、焼却処分する。また罹病残渣は伝染源となり、病原菌は降雨などにより水媒伝染するので、圃場内および周辺に放置しない。
- (2) 本病菌は多犯性で、広範な雑草等にも寄生しているので、圃場内外の除草を徹底する。
- (3) 圃場内土壌が加湿にならないようにする。また、雨水などが圃場内に流れ込まないように排水に留意する。
- (4) 本病は好適な条件下では、感染から発病、蔓延までが極めて短期間に起こるため、気象予報などに注意し、長雨が予想される場合には、晴れ間をみて以下の薬剤を予防的に散布する。また、薬剤は枝や幹にも十分かかるように散布する。

薬 剤 名	使用基準	濃 度	散布量
アリエッティ水和剤	収穫14日前/3回	800倍	200L/10a

- (5) 本病は剪定痕などの傷口から容易に侵入し、発病するので、枝を剪除した場合は、剪定痕にただちにトップジンMペーストを塗布する。また降雨が予想される前には剪定作業を行わない。
- (6) 本病の発生を放置すると枝の基部方向へも進展し、枝・幹枯れを起こすことがあるので、早めの防除を徹底する。